

胃がん検診を申し込まれた方への大切なお知らせです！

胃がん検診をお受けになる前に必ず全ての項目をご確認ください。

バリウムによる胃がん検診を希望されても、体質や過去の病気によっては、アレルギーによる重篤な症状が出たり、バリウムが腸内で固まって腸閉塞を起こしてしまうなど、検診を受けることによりむしろ不利益を被る場合があります。安全に検査を受けるために、次の項目を必ず確認してください。

① 次の項目に該当する方はバリウムによる胃がん検診を受けることはできません。

医療機関にご相談のうえ他の方法で胃がん検査を受けてください。

- 過去の検診で発疹等のアレルギー症状が出たことがある方。
- 妊娠中、または妊娠の可能性のある方。(授乳中の方は可能です。)
- 肺の病気で、手術によりどちらか片方の肺がない方、または、常時酸素吸入をしている方。
- 腎不全にて現在透析中で水分制限を受けている方。
- 身長195cm以上、または体重135kg以上の方は撮影装置の問題から検査できません。

② 次の項目に該当する方にはバリウムによる胃がん検診をお勧めできません。

他の方法で胃がん検査を希望される方は医療機関にご相談ください。

- 腸閉塞や腸ねん転、大腸憩室炎と診断され、治療を受けたことがある方。
- 過去の検診でバリウムを誤嚥した(気管に入った)ことがある方、日常的にむせやすい方。
- 寝返りや立つ時に日常的に介助が必要な方。

③ 次の項目に該当する方は主治医にバリウムによる胃がん検診の可否について相談してください。主治医の許可があれば受診できます。

- 食道・胃の外科的手術もしくは内視鏡治療をして1年以内、または食道や胃の疾患で経過観察中の方。
- 大腸・小腸の外科的手術をして1年以内または内視鏡治療をして3ヶ月以内の方。
- 肝臓・膵臓・胆のう・婦人科等の手術(腹腔鏡下手術も含む)をして6ヶ月以内の方。
- 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)で治療中の方。

〈当日の注意〉

・検査前に飲食してしまった方や、朝にインスリン注射や血糖降下剤を服用してしまった方は、当日の検診は受けられません。日程を変えて受診するか、主治医にご相談ください。

・検査台の上で一人で体位変換ができない、あるいは、握り棒を持って体を支えることができないなど、体の状態により、転倒などの危険性を考慮し検査を中断したり、お断りすることがあります。

正確な診断をするため次の項目に注意してください。

- ① 検診前夜は飲酒をしないで、夕食は8時頃までにすませてください。
- ② 検診の2時間前まではコップ1杯程度の水に限り飲んでもかまいません。(検診当日の朝は何も食べないでください。)
- ③ 心臓病・高血圧症の方はお薬を飲んでから検査を受けてもよろしいです。但し、お薬を飲んでから2時間後の検査となります。(ご不明な場合は主治医にご相談ください。)
- ④ 検診当日の朝は出来るだけ排便してください。
- ⑤ 会場には検診用ガウンを用意しております。ボタン・金具のない下着の上にガウンを着用して頂きます。

ご不明な点や検診を受けてもよいか判断がつかない場合は、下記までご連絡ください。

宮城県対がん協会がん検診センター
TEL 022(263)1525 看護課

(連絡は、平日午後2時～5時までの間にお問い合わせ致します。)